

平成 22 年度

「大津市景観重要広告物」

大津市指定



「きらッとおおつ景観広告賞」

受賞広告物



目次

◇市長あいさつ 大津市長 目片 信	1
◇顕彰制度の審査を終えて 審査委員長 石川 亮	2
◇大津市景観重要広告物	3
指定第1号 八百与	4
指定第2号 元祖阪本屋鮎壽司	5
指定第3号 鶴里堂	6
指定第4号 御饅頭處餅兵	7
指定第5号 石田歯科醫院	8
◇きらッとおおつ景観広告賞	9
突出広告物部門 和風アンティークカフェ喜一郎	11
のれん・ちょうちん部門 大津魚忠	12
ひさし看板部門 藤屋内匠	13
壁面広告物部門 ふゆーちゃ	14
きらッと賞 柴山商店	15
きらッと賞を選定した「おおつ広告探偵団」	16

「大津市景観重要広告物」および「きらッとおおつ景観広告賞」

市長あいさつ

大津市長 目片 信



屋外広告物は、人々の生活に溶け込み、様々な活動に欠くことができないものとなっています。しかし、無秩序に氾濫するとまちの景観が損なわれる恐れもあります。

大津市は中核市への移行に伴い、平成21年4月に屋外広告物条例を制定し、屋外広告物の適正な表示による良好な景観の形成に努めています。特に、違反広告物対策に重点を置いて取り組み、すっきりとしたまちなみの形成に成果を上げています。市民の方々に、屋外広告物について、さらに興味を持っていただくことで、まちなみに調和した屋外広告物が増えるものと考えています。

大津は、自然豊かな比叡、比良の山々と、その四季折々の彩りを映す琵琶湖に抱かれ、長い歴史を刻んできました。その美しい風土は、市民の誇りであり、また、訪れる人々を魅了するものともなっています。

平成15年10月、大津市は古都保存法に基づく政令指定を受け、名実ともに『古都』として、広くその価値を認められるようになりました。

このような中、まちなかには長い風雪に耐え、大津の景観の一部ともなってきた看板類が多く残っています。これら屋外広告物を歴史的な資源として指定する全国でも珍しい制度「大津市景観重要広告物」を設けることとなりました。いくつもの時代の移り変わりを眺めてきた古い看板たちと、それらを大切に守ってこられた所有者の方々に深く敬意を表します。これらが今後も後世へと引き継がれるよう、まちの資源として、市民の皆様大切にしてくださいと思います。

また、大津は市域が南北に長く多様な歴史、文化を持つ地域により構成される都市で、個性のある地域の景観を創り、育てることを推進しています。地域ごとのまちづくりの方針に合致し、大津の新たな景観を創り出す先導的な役割りを担う広告物を「きらッとおおつ景観広告賞」として顕彰することとなりました。

応募いただいたものは、古いまちなみに調和したものから現代的なデザインのものまで、どれも独自に工夫されたものばかりでした。

これを機に、市民の皆様が屋外広告物に関心を持ち、大津のまちをさらに好きになっていただき、未来の美しい景観づくりへと繋がれば幸いです。

顕彰制度の審査を終えて

審査委員長 石川 亮
(美術家 成安造形大学講師)



大津市街地を中心とするまちなみは歴史文化の匂いを感じさせる魅力的な景観を持っています。今回の取り組みは大津市の住人やここを拠点に教育・研究をすすめる教職員、学生が自分たちで考えて検証していく事に意味がある試みだと感じています。

「きらっとおおつ景観広告賞」を位置付けていくにあたり、それらを自分の好みや感情で判断するのではなく、どのように見ていくのか或いはどのように取り組むべきなのかを考える事から始まりました。「景観広告とは何なのか」「大津市の歴史的背景とは」「そもそも良好な景観とは」など、検討すべく問題定義をあげた後、それぞれの有識者にご講義いただきました。学生たちを中心とする「おおつ広告探偵団」はこのように結成され、実地調査を行うワークショップをすすめていきました。

参加した龍谷大学法学部の学生さんは活性化する町づくりや法的な規制の視点から、成安造形大学造形学部の学生さんは地域の背景から大きさや色合い、素材など美的調和の視点から眼差しを向けていきました。これは、それぞれの得意分野である研究領域の特徴が十分に発揮され、考え方を刺激しあう取り組みになりました。その後、集められた多くの魅力的な景観広告の提案(写真)は「おおつ広告探偵団」が導き出した景観広告をみていく考え方が大きく反映されたと感じています。

「大津市景観重要広告物」の審査においては地域の象徴として長年親しまれ、継承されてきたものに数を絞り込み選出する事に留まらず、後世に残していくものとして審査員全員一致で5点位置付けることに決定しました。

最後にこの取り組みを通して景観広告に眼差しを向ける事は、まちなみを感じ、秩序を読みとっていく事だと思いました。そのことは大津の歴史文化や成り立ちを知り次世代にどのように継承していくべきか、またこの町を訪れる人々に何を伝えるのかを考えることになりました。

大津市景観重要広告物

大津の素晴らしい景観は、長い歴史の間に積み重ねられた人々の営みがあり、形成されてきたものです。現在も大津のまちなかには、人々の生活の中から生まれ、独特の歴史を感じさせる古い看板類が大切に残され、地域の景観の象徴となっています。長年にわたり地域の皆さんに親しまれ、大津の景観の一部となってきた看板等の屋外広告物が、将来にわたって保全・継承されることを願い「大津市景観重要広告物」を指定しました。

第1次指定広告物

八百与
元祖 阪本屋鮎壽司
鶴里堂
御饅頭處 餅兵
石田歯科醫院

指定基準

大津市屋外広告物条例に適合する屋外広告物のうち、次の各号のいずれにも該当するもの。

- 1 製作後概ね25年を経過しているもの
- 2 歴史的なまちなみ景観に寄与しているもの
- 3 再現することが容易でないもの
- 4 造形の優れているもの

第1次指定の対象地域

第1次指定は、大津の中心市街地である大津駅から浜大津にかけての一带（中心市街地活性化基本計画区域）を対象地域としています。ここは、旧東海道などの街道に沿った区域で、古くから大津の繁栄を支えており、その証としての価値ある屋外広告物がいくつもの時代を経て残されています。



審査委員

委員長

石川亮 美術家 成安造形大学講師

委員

永味義國 滋賀県広告美術協同組合理事長

酒井英夫 大津市中心市街地活性化協議会会長

石川順三 社団法人大津市商店街連盟理事長

白井勝好 NPO法人大津祭曳山連盟理事長

伊藤康行 大津市技術統括監

（順不同・敬称略）

審査会

平成22年11月17日（水）

あらかじめ現地調査を行ったうえで、指定広告物の選考を行いました。

指定年月日

平成22年12月4日（第1次指定）

通知書交付式

平成22年12月4日（土）

場所 旧大津公会堂





八百与



広告物の種類：ひさし看板

大きさ：縦90cm×横220cm(概寸)

製作年代：嘉永3年頃(1850年頃)

所在地：大津市長等二丁目9-4

指定年月日：平成22年12月4日

広告主：小倉与七郎



創業は嘉永3年(1850)。昭和8年に前面道路の拡幅がなされたが、建物は創業当時の面影を残しています。軒の上には、漆喰の虫籠壁が見えています。八百与の長等漬が宮内省(現・宮内庁)ご用達指定されたのは大正3年(1914)のこと。

ひさし看板に描かれた大きな蕪の絵は、近江かぶらを描いたものです。ケヤキの1枚板で出来ており、およそ160年前に制作されたものと伝えられています。台座が狛犬の彫刻であったり、銅葺きの大きな屋根があるなど、看板を大事にする気持ちが伝わってきます。





元祖 阪本屋鮎壽司



広告物の種類：ひさし看板

大きさ：縦 135 cm × 横 550 cm (概寸)

製作年代：昭和 10 年

所在地：大津市長等一丁目 5-21

指定年月日：平成 22 年 12 月 4 日

広告主：(株)阪本屋 代表取締役社長 内田 健一郎



阪本屋は、その昔現在の木下町にあり、湖面に面して楼閣を有した事から 映波楼 と呼ばれ、古くはシーボルトの旅日記にも登場するとのこと。川魚料理の他に鮎ずしが得意で、県下で初めて鮎ずしの商品化に取り組み、明治 2 年に鮎ずしの販売を専門に行う分店として、現在の札の辻の地で開業しました。当該ひさし看板は、船の底板を利用した、ユニークな構造となっています。ノミで彫られた文字には、白色の塗料が丁寧に施されています。





鶴里堂



広告物の種類：ひさし看板

大 き さ：縦 210 c m × 横 135 c m (概寸)

製 作 年 代：大正 15 年以前 (不詳)

所 在 地：大津市京町一丁目 2-18

指 定 年 月 日：平成 22 年 12 月 4 日

広 告 主：大津菓子調進所 (有)鶴里堂

代表取締役 栢口 文雄



鶴里堂という屋号は、昔、比叡山より望んだ大津の里が細長く弓形で、鶴が翼ひろげてまさに飛び立とうとする姿に似ていたことから、「鶴の里」と呼ばれていたことに因んでいます。ひさし看板の文字は、山本竟山(1863-1934)の書による。書に従って丁寧に彫られており、緑青による塗装が施されていたようです。ケヤキの1枚板でできた看板は、銅板で囲われており、今なお美しい姿を保持しています。





御饅頭處 餅兵



広告物の種類：ひさし看板

大きさ：縦 120 cm × 横 150 cm (概寸)

製作年代：明治初期 (1870 年頃)

所在地：大津市中央二丁目 5-37

指定年月日：平成 22 年 12 月 4 日

広告主：梅村 眞司



餅兵(もちひょう)の創業は、今からおよそ 250 年前。町方の餅や饅頭の店として栄えました。地元の人々からは「もっちゃはん」のあだ名で親しまれてきたといいます。「御饅頭處」と書かれた大きな古い木製のひさし看板は、ケヤキの一枚板から作られています。梅村商店からか、看板の台座に「梅」のモチーフがあしらわれています。商標の部分などの金箔の跡が、開店当時の華やかさを偲ばせます。





石田歯科醫院



広告物の種類：壁面広告物

大きさ：縦 35 cm × 横 125 cm (概寸)

製作年代：大正 12 年

所在地：大津市中央一丁目 7-33

指定年月日：平成 22 年 12 月 4 日

広告主：石田 益世



広告物が設置されている建築物は、平成 22 年 3 月 19 日に国の登録有形文化財（建造物）として指定を受けています。二階建て、切妻造、スパニッシュ瓦葺で、正面中央の小さなバルコニー上には切妻の庇がかかっています。壁面広告は、イタリア産の大理石を用いた西洋の仕様となっていますが、掘り込まれた右横書きの医院名は、日本風の字体で味わいがあります。オールドイングリッシュ体で書かれた英語名が、洋館にマッチしています。



きらッとおおつ景観広告賞

大津市では、屋外広告物を景観形成の大きな要素として扱い、まちの景観づくりの方針や周辺環境に調和した屋外広告物の掲出による、景観の保全と形成を進めています。そこで今回、先導的な役割を担う良好な広告物を選定、顕彰することで、「良好な広告物による良好な景観づくり」を目指したいと考え、まちなみに調和した優れたデザインの広告物を市民から公募（自薦・他薦）し、選考のうえ「きらッとおおつ景観広告賞」として表彰しました。

入賞作品

突出広告物部門

和風アンティークカフェ 喜一郎

のれん・ちょうちん部門

大津 魚忠

ひさし看板部門

藤屋内匠

壁面広告物部門

ふゆーちゃ

きらッとお賞

柴山商店

審査基準

大津市屋外広告物条例に適合する屋外広告物のうち、次の各号のいずれにも該当するもの。

(1) 次の観点から優れているもの。

) 建物、周辺景観やまち並と調和しているもの。

) 広告物自体の形態、意匠、素材などが優れているもの。

) 照明効果や独自の工夫に優れているもの。

(2) 修景効果及び販売促進効果が十分に発揮されているもの。

(3) 対象エリアのまちづくりの方針に合致しているもの。

平成 22 年度の対象地域

中心市街地である大津駅前から浜大津にかけての一带（中心市街地活性化基本計画区域）は、県都大津の玄関口であり、都市の発展の歴史の中で、近代的な都心としての利便と安全のための都市的整備が進んだ一方、かつて東海道最大の宿場として繁栄し、大津百町の町人文化が大きく花開いた高い歴史性を誇る場所でもあります。この地域の二つの側面を併せ持つ特徴は、大津の景観の特徴を示すものでもあるため、より効果的な顕彰制度とするため、今回の「きらッとおおつ景観広告賞」の対象地域としました。

審査委員

委員長

石川亮 美術家 成安造形大学講師

委員

永味義國 滋賀県広告美術協同組合理事長

酒井英夫 大津市中心市街地活性化協議会会長

石川順三 社団法人大津市商店街連盟理事長

白井勝好 NPO法人大津祭曳山連盟理事長

伊藤康行 大津市技術統括監

（順不同・敬称略）



選考経過

募集

平成 22 年 8 月 2 日(月)～平成 22 年 9 月 10 日(金)

応募総数 78 件

突出広告物部門 15 件

のれん・ちょうちん部門 13 件

ひさし看板部門 25 件

壁面広告物部門 25 件

学生ワークショップ「おおつ広告探偵団」

(きらッと賞の選考)

平成 22 年 8 月 30 日(月)

成安造形大学と龍谷大学の学生による優良屋外広告物の調査を行い、最もデザインの優れた広告物を大学生の目線で選出し、「きらッと賞」1 点を選考しました。



第 1 次審査会(書類審査)

平成 22 年 9 月 30 日(木)

応募された屋外広告物の近景写真及び遠景写真を用い、第 2 次審査会における審査対象作品を選考しました。



第 2 次審査会(現地視察および最終審査)

平成 22 年 11 月 17 日(水)

第 1 次審査通過作品の現地視察を行ったうえで、賞の選考を行いました。



表彰式およびパネル展示

表彰式

平成 22 年 12 月 4 日(土)

場所 旧大津公会堂



パネル展示

平成 22 年 12 月 4 日(土)～平成 22 年 12 月 17 日(金)

旧大津公会堂





和風アンティークカフェ 喜一郎



大津駅前のアンティークショップが併設されたカフェに設置された屋外広告物です。舟板に赤い古書体で手書きされた文字がアクセントになりながらも、けばけばしくなく、町家建築の和風の佇まいに、うまく調和しています。古さと新しさが融合したデザインは、これからの大津のまちづくりを先導するものと言えます。



所在地：大津市梅林一丁目 2-7

広告主：片山 裕二





大津魚忠



旧東海道沿いにある、老舗の料亭に掲げられた暖簾(のれん)です。ろうけつ風の渋みのある色の素材に、デザインされた文字が伝統を感じさせます。建物全体が旧東海道の象徴となる町家で、伝統的な暖簾(のれん)とともにまちなみによく調和しています。

所在地：大津市京町二丁目 4-10

広告主：(有)ウオチュウ 代表取締役 橋本 忠司





藤屋内匠



旧東海道より一筋北の通りにある創業が寛文元年（1661）という老舗の和菓子屋に揚げられた広告物。看板自体は昭和61年に制作されたものですが、馴染み深い和風のデザインで存在感があります。右横書きの文字が伝統を感じさせ、歴史ある店の誇りを感じさせます。また、木製の板材にシンプルな白文字が建物と旧市街地のまちなみによく調和しています。



所在地：大津市中央三丁目 2-28

広告主：遠藤 仁兵衛





ふゆーちゃ



洋風創作料理店の屋外広告物で、建物のファサードと一体化してデザインされ、落ち着いた印象を与える作品です。白い文字が、木製の黒壁に浮かび上がり、シンプルですっきりとした仕上がりです。文字と壁の素材の組み合わせがユニークで、建物に町家の雰囲気もありながら、都会的なデザインが印象的です。

所在地：大津市京町三丁目 2-11

広告主：(有)ふゆーちゃサービス

代表取締役 平井 良彦





柴山商店



大学生によるワークショップを開催し、実際にまちを歩いて、デザインの光る広告物を探し出し、「きらッと賞」として学生たちが選考した作品です。透明な素材を使用することで、旧東海道沿いの町家の外観を侵すことなく、むしろ調和している様は、新しい大津のあり方を表しているようです。シンプルかつさりげないデザインは、斬新であるともいえるでしょう。



所在地：大津市京町一丁目 3-25

広告主：柴山 久治

きらッと賞を選定した「おおつ広告探偵団」



平成 22 年 8 月 30 日、「おおつ広告探偵団」と称し、優良屋外広告物顕彰制度の実施に先立ち、成安造形大学と龍谷大学の学生による優良屋外広告物の調査を行いました。旧大津公会堂にて、「大津市の景観施策」や「優良な屋外広告物」についての講習を受講後、優良なデザインの屋外広告物を探して中心市街地活性化基本計画区域内に繰り出しました。その後、探し出した屋外広告物の写真を持ち寄って参加者全員でワークショップを行い、最もデザインの優れた広告物を大学生の目線で選出し、「きらッと賞」1点を選考しました。



日時：平成 22 年 8 月 30 日（月）
10：00～17：00
場所：旧大津公会堂 会議室 1・2

内容：講習会及びワークショップ

講習会

- その 1「大津市の景観施策と屋外広告物」
- その 2「優良な屋外広告物とは」
- その 3「大津市の中心市街地について」
- その 4「歴史都市大津の景観」

ワークショップ

中心市街地活性化基本計画区域内で優良な屋外広告物を探索

参加者

大津市
滋賀県広告美術協同組合
成安造形大学
龍谷大学





発行 / 大津市都市計画部都市景観課

〒520-8575 大津市御陵町 3 番 1 号

Tel(077)528-2956 Fax(077)523-1533

発行日 / 平成 23 年 3 月